

百年に詠う
小・中・高の
空と水

浜松市制100周年記念

十湖賞

第4回 俳句大会

— 入選句集 —

浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会

〈発行元〉 浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会

〈事務局〉 浜松市東区役所区振興課内

浜松市東区流通元町20-3

TEL 053-424-0115 FAX 053-424-0131

Eメール e-shinko@city.hamamatsu.shizuoka.jp

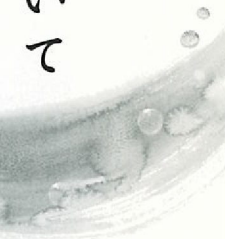
十湖と東区俳句の里づくりについて

松島十湖は江戸の末期、現在の浜松市東区豊西町に生まれた俳人にして政治家。さらには地域貢献に努めた篤志家です。生涯に創られた句は七千とも言われ、全国各地に多くの門人がいたとされます。

東区ではこうした十湖の遺徳を称えるとともに「土の詩人」として生きた十湖の心を今に伝えるべく「十湖賞」俳句大会を開催しております。

元来、東区内には句碑群が残存しており、同時にまた多くの俳人をも輩出し、俳句のまちとしての側面を垣間見ることができます。

東区及び実行委員会では、このような背景のもと、「浜松市東区俳句の里づくり事業」を行っております。



目次

ごあいさつ……………2・3

十湖大賞……………4

十湖賞……………5

東区長賞
県教育長賞
市教育長賞……………6

特選……………7

佳作……………8・9

努力賞……………10・13

第4回「十湖賞」俳句大会 投句実績

一般の部		高校生の部		中学生の部		小学生の部		全 体		一般の部・地域別	
人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	地域	投句数
376	1,217	1,414	3,040	2,506	5,385	1,707	4,378	6,003	14,020	市内	851
										県内(浜松市外)	128
										県外	238
										合計	1,217

第4回「十湖賞」俳句大会 入選句集

平成二十四年二月十二日
於 浜松市総合産業展示館北館四階一号ホール

委員長 松島 知次

「十湖賞」俳句大会は第四回目となりますが、今回も多数の応募をいただきました。

投句された方は全部で6003人(第三回は4935人)、投句数は1万4020句(第三回は1万2195句)。多数の方々に応募をいただきましたことを感謝申し上げます。

「十湖賞」俳句大会は浜松市東区俳句の里づくり事業の中核事業として実施しています。第四回では初めて高校生が十湖大賞に選ばれました。この事業では俳句の出前教室を小中学校の授業の中で開催しており、子ども達の自然や歴史への感受性によく貢献していると考えています。ご指導いただいている浜松の俳句結社の皆様にも深く感謝申し上げます。これからも俳句を通して皆様方の生活に役立てばと念願し、事業を進めていきます。

終わりに、表彰された皆様への感謝とお祝いを申し上げます。

浜松市東区長 高林 泰秀

東区は、浜松市の東の玄関口にあり、交通の要衝として発展してまいりました。また、天竜川や安間川など豊かな水資源に恵まれ、歴史的な地域資源も豊富で、東海道をはじめとする歴史街道や全国的にも類をみないほどの多くの句碑があります。そこで、地域資源を活かしながら、地域の誇りとして育んでいこうと行政と住民の協働による「俳句の里づくり」が進んでおります。

特に、子ども達の視野を広めるために、区内の全小中学校で俳句出前教室を開催し、俳句を通して自然や季節、言葉への興味を持つことのお手伝いになればと思っております。

第4回大会は、浜松市制100周年記念大会として、「ふるさとの空と水」「浜松市制100周年にちなんだもの」を句題に、全国から1万4020句の作品が寄せられましたことは、非常に喜ばしいことでもあります。

結びに、募集句のご選考をいただきました選者の方々には、心から敬意を表しますとともに、ご応募いただいた皆様に深く感謝を申し上げます、ご挨拶いたします。

十湖大賞

【高校生の部】

月と海冷たいしぶきが僕をうつ

二俣高校 一年 鈴木 龍彦

【評】「海に月」という大きな景から、一気に「僕」の視点に移っていく構成が若々しく、大胆。顔にふりかかるしぶきの冷たさは、若い魂の苦しみや辛さを代弁しているのだろう。何よりも俳句の型にとらわれない文体に、作者の生々しい息づかいが感じられて良かった。(高柳克弘)

十湖賞

【一般の部】

先づ空に畑に一礼 鋏始

埼玉県所沢市 志村 美好

【評】

「鋏始」は新年に入って耕作などを始める儀式を言う。「先づ空に畑に一礼」が眼目。平易で解りやすい。リズムもよい。しかし、何より感心したのは、自然に対する敬虔な心根と農の暮しに感謝する心を感していることである。(九鬼あき彦)

【中学生の部】

浜松の楽器は春を呼びよせる

天竜中学校 一年 小林 桃子

【評】

ピアノは浜松で初めて生産、二大楽器メーカーがあることは人口に膾炙。そんな楽器の街を大好きな作者は駅前でのプロムナードコンサートに立ちつくし、その音色に「春を呼びよせる」と虜になっている。春隣の一韻。(笹瀬節子)

【小学生の部】

セミとついでつかい夕陽にかざしたよ

鶴江小学校 五年 片岡 さら

【評】

熊ぜみをつかまえた喜びの一日を素直に力強くまとめ、映画のワンシーンを見るかのようにこちよく伝わってくる。「夕陽にかざしたよ」は景が大きく魅力ある表現である。(鈴木裕之)

東区長賞

〔一般の部〕

葱太る遠州灘の波の音

浜松市中区

稲津とし子

県教育長賞

〔高校生の部〕

夕焼がふるさとすべて包みこむ

二俣高校 一年

掛井 夏美

市教育長賞

〔中学生の部〕

背泳ぎといっしょに泳ぐいわし雲

与進中学校 二年

岩崎弘太郎

〔小学生の部〕

天高くはやく行く雲おそい雲

豊西小学校 六年

夏野 友祐

特選

〔一般の部〕

艇庫より若人の声秋澄めり

浜松市中区

右崎 容子

身籠りし蟠螂に天深みたり

浜松市中区

原 百合子

〔高校生の部〕

あと一歩縮まぬ距離に風薫る

二俣高校 二年

山本菜三恵

梅雨明けて教室からのアクトタワー

浜名高校 三年

森 秀一郎

〔中学生の部〕

虹を見てまた一歩ずつ歩いてく

笠井中学校 三年

岡本紗希子

大念仏夏の夜空にしみわたる

中郡中学校 二年

古川 紗椰

〔小学生の部〕

白く光る海の消しかすシラスかな

都田南小学校 六年

小川はるね

ぶらんこでとどかぬ空をけってみる

与進小学校 六年

永田 茉那

佳作

【一般の部】

稲架掛やちちははの癖われの癖

浜松市浜北区
鈴木 鈴代

なせばなる音楽の町さはやかに

浜松市東区
村松 信一

蓮の実の飛んで近づく故郷かな

浜松市中区
稲津とし子

田水張るひと日平らに水と空

茨城県筑西市
大森 薫

水うまさ郷にかかりし銀河かな

愛媛県西条市
渡辺 国夫

妻となり蛍の川に住みにけり

岡山県岡山市
信安 淳子

【中学生の部】

初凧に大きくなれといのりけり

天竜中学校 一年
渡瀬 華

目高いるきれいな水がここにある

天竜中学校 二年
伊藤 鈴佳

涙なんて似合わないぜとからっ風

笠井中学校 三年
中村 友洋

秋風にピアノの音をのせて弾く

西温安学園中学校 三年
宮松 恭子

夏山の水はあふれて沢つくる

中郡中学校 三年
千葉 大樹

浜名湖の青と重なる夏の空

積志中学校 三年
石井 健太

【高校生の部】

蜘蛛の糸雫をあびて光りだす

二俣高校 一年
内山 謙也

かげろうをうちけし走る子どもたち

二俣高校 二年
鈴木 豪人

夏の夜プラネタリウム独り占め

二俣高校 二年
高野 晴菜

秋の夜またあの本へ入り込む

二俣高校 三年
増田 寛也

頂点へ登り続ける入道雲

浜名高校 一年
森上 咲希

河川敷夏は涼しい通学路

浜松東高校 三年
藤井 梨乃

【小学生の部】

十こいけ月のうさぎはうつるかな

豊西小学校 二年
糟谷 日愛

夏の海アカウミガメが旅に出る

豊西小学校 四年
松島 百花

熱帯夜宇宙のかけらがふってきた

豊西小学校 六年
中野 天音

うぐいすの声をきくため耳すます

蒲小学校 六年
南澤 莉那

大海日水が氷にかわりそう

蒲小学校 六年
磯部 弘乃

太陽といっしょにのぼるこいのぼり

与進小学校 六年
佐藤 史弥

努力賞

〔高校生の部〕

夏の空大きな花が咲きほこる

二俣高校 一年
平野 舞彩

桜舞う道踏みしめて別れの日

二俣高校 一年
鈴木 晶子

釣堀でなにもつれない風の音

二俣高校 一年
栗田 潤一

屋根の上カボチャを持ったサルがいる

二俣高校 二年
佐々木 帆奈

せみがなく引退試合せまってる

二俣高校 二年
佐藤 七海

初雀未来目がけてまっすぐに

二俣高校 二年
中野 雅章

軒先に切干し大根祖母の味

二俣高校 二年
紅瀬 絵実佳

城跡へ桜吹雪の道続く

気賀高校 三年
山崎 詩織

朧月奥で聞こえる母の声

気賀高校 三年
河合 美佳

作曲も自由自在なカエルの子

二俣高校 三年
佐藤 和世

鯛雲犬と私のおにごっこ

二俣高校 三年
鈴木 亜美

夏休み君が見つける物語

二俣高校 三年
鈴木 聡史

雨上がり教室で見る空に虹

浜名高校 一年
小長井 春穂

ブランコをこけば近づく夜の空

浜名高校 一年
内山 翔也

セミのこえロックだましいひびいてる

浜松東高校 三年
匂坂 瑞稀

〔中学生の部〕

体育祭友と見つけたいわし雲

与進中学校 一年
中野 祐里

朱に染まり風と踊るは曼珠沙華

与進中学校 一年
小池 匡徳

天高しいつ届くかなほくの手が

与進中学校 一年
杉浦 成哉

雪解て新たな生命やどりだす

天竜中学校 一年
神谷 心優

星の数かぞえて歩く夏の道

中郡中学校 一年
松下 由紀

夕焼の暴れ天竜静かなり

笠井中学校 二年
宮木 省吾

満月に照り輝くは十湖塚

笠井中学校 二年
三海 正樹

百年の青田の緑受け継いで

与進中学校 二年
諸井 達哉

初空に決意をしめし目をとじる

与進中学校 二年
本間 瑞季

落し水霧の香りが冷やかに

与進中学校 二年
コランタケシ

葉桜と風と一緒に皆走る

天竜中学校 二年
岩倉 実由

オリオン座輝く空の砂時計

中郡中学校 二年
鈴木 理紗

空を飛ぶ翼の下の運動会

笠井中学校 三年
松島 諒太郎

浜名湖の魚がおどりせみがなく

笠井中学校 三年
藤丸 力也

向日葵に負けじと上を向き歩く

笠井中学校 三年
滑原 はるな

五月雨で力戻りし安間川

与進中学校 三年
鈴木 圭吾

【中学生の部】

透き通る浜松の水小鳥来る

西邊女子学園中学校 三年
遠藤紗里奈

しゃぼん玉とばした中に友の顔

西邊女子学園中学校 三年
安藤 祐華

とんぼ飛ぶあとに残るはほくの影

中郡中学校 三年
仲田 彩希

秋祭り町かけめぐるラッパの音

中郡中学校 三年
菅沼 佳代

【小学生の部】

おはじきをとばしてきれいあきのかぜ

浜名小学校 二年
藤田 真桜

お月さまわたしのあとをついてくる

大平台小学校 三年
石塚 麻有

太陽がやさしくなるよ秋の空

豊西小学校 四年
川合 真央

秋晴れに世界の国きがおどってる

豊西小学校 四年
鈴木 果穂

とうがんの熱いみそ汁母の味

豊西小学校 四年
波田野僚穂

ふる上がり祖父と取り合う扇風機

与進北小学校 六年
尾崎 竜大

すずしさを求めて川へ風の音

与進北小学校 六年
坂口 加奈

天竜の川の恵みに育つあゆ

中ノ町小学校 六年
伊藤 謙佑

夏の星見て思い出す祖母の顔

和田東小学校 六年
小枝 純

息白く青空の中おにごっこ

大瀬小学校 六年
友田 愛純

ベッドからみたまんげつのうつくしさ

大瀬小学校 六年
鈴木 淳平

さわさわとすすきがおどる夜の空

豊西小学校 六年
大柴 彩菜

空高く雲の線路がつづいてる

豊西小学校 六年
中安 花野

浜松をずっと見てきた天の川

笠井小学校 六年
加藤 絢香

あじさいがみずをはじいて光ってる

笠井小学校 六年
瀧本 亜樹

浜松市百年祝う桜かな

蒲小学校 六年
鈴木 昇汰

空と水きょうりよくしあつて雪とけた

与進小学校 六年
大谷みずほ

草の中ちいさくさくよきくの花

与進小学校 六年
犬塚 開斗

私もね浜松育ちうなぎもね

与進北小学校 六年
市川 有深

なつの海青くすずしい魚いる

和田小学校 六年
水谷つばさ

冬の日のピアノの音の温かさ

与進小学校 六年
田北 雄大

手を合わせ待ちどおしいよ流れ星

与進小学校 六年
山田 葉里

誰よりも合唱好きな雨蛙

与進小学校 六年
川路 萌

泉にはみんなの平和ねむってる

与進小学校 六年
清水光之介

向日葵は夢に向かって咲いている

与進小学校 六年
安藤 美波

向日葵のすきまから見る天竜川

与進小学校 六年
市野那津子

誰よりも合唱好きな雨蛙

与進小学校 六年
山田 萌

手を合わせ待ちどおしいよ流れ星

与進小学校 六年
山田 葉里

冬の日のピアノの音の温かさ

与進小学校 六年
田北 雄大

手を合わせ待ちどおしいよ流れ星

与進小学校 六年
山田 葉里

誰よりも合唱好きな雨蛙

与進小学校 六年
川路 萌

泉にはみんなの平和ねむってる

与進小学校 六年
清水光之介

向日葵は夢に向かって咲いている

与進小学校 六年
安藤 美波

向日葵のすきまから見る天竜川

与進小学校 六年
市野那津子

誰よりも合唱好きな雨蛙

与進小学校 六年
山田 萌

手を合わせ待ちどおしいよ流れ星

与進小学校 六年
山田 葉里

冬の日のピアノの音の温かさ

与進小学校 六年
田北 雄大

手を合わせ待ちどおしいよ流れ星

与進小学校 六年
山田 葉里